

# 風しんの追加的対策（第5期接種）対象者のうち 抗体検査受検者数

# 4,714,360人

## Answer

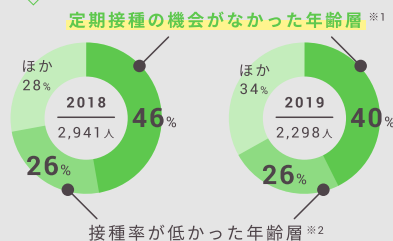
風しんの追加的対策（第5期接種）の対象者は、1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性です。対象者には全国4万カ所以上の医療機関で使える無料のクーポン券がお住まいの市区町村より配布されています。

2019年度開始時点での全国の対象者数は、15,374,162人であり、2023年11月までに抗体検査を受けた人が4,714,360人（対象人口の30.7%）、予防接種を受けた人が1,019,485人（対象人口の6.6%）となっています。

この世代の男性は定期接種の機会がなく、風しん抗体保有率が高くありません（予防接種法上、男性が風しんの予防接種を受けられるようになったのは1972年4月2日以降に生まれた人からであったため）。

定期接種の機会がなかった年齢層（2024年4月1日時点：45歳以上の男性）や接種率の低かった年齢層（2024年4月1日時点：34歳以上45歳未満の男女）では、風しんに対する感受性者が多く、2018～2019年の風しん流行の中心となりました。

### 年代別の風しん患者数と年齢層の割合



2024年4月1日時点（※1）45歳以上の男性（※2）34歳以上45歳未満の男女

## Message

# クーポン券を利用しましょう

## Introduction

### 風しんのこと

#### 風しんとは？

風しんウイルスの感染によって起こる急性熱性発疹症です。潜伏期間は2～3週間で、主な症状として発疹、発熱、リンパ節腫脹がありますが、3主症状がそろえるのは約半数です。感染しても、約15～30%の人は症状が出ないことが知られています。飛沫感染、接触感染で伝播しますが、発疹の出る1週間前から、発疹が出た後1週間くらいまでは感染力があるとされています。

症状は比較的軽く、予後は一般的に良好ですが、血小板減少性紫斑病、脳炎等の合併症が発生することがあり、軽視できない疾患です。大人が罹患すると、その症状は乳幼児に比べて一般に重く、高熱の持続や、関節痛の発生頻度が高いといわれています。

比較的軽微な疾患である風しんの最も重要な点は、妊娠20週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、胎児も感染し、出生児が難聴、先天性心疾患、白内障、精神運動発達遅滞等の先天性風しん症候群（CRS）を発症する可能性が高いことです。

#### 風しんのクーポン券とは？

風しんの追加的対策（第5期接種）の対象者に抗体検査を無料で受けられるクーポン券が配布されています。抗体検査を受けて陰性であった場合には、無料でワクチン接種を受けられます。

風しんの合併症から身を守り、家族への感染を予防し、生まれてくる子どもたちをCRSから守るためにも、クーポン券を利用した抗体検査の検討をお願いいたします（第5期接種は2025年（令和7年）3月までとなっていますので、早めの行動がおすすめです）。

“札幌市から、対象者あてに下図の封筒で、クーポン券をお送りしています。”

